

第2次安曇野市観光振興ビジョン 第3回策定検討委員会 議事録

- 1 会議名 第2次安曇野市観光振興ビジョン 第3回策定検討委員会
- 2 日時 令和4年9月8日 午後3時から4時30分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 3階 会議室 305
- 4 出席者 尻無浜博幸 委員(委員長)、宮田弘康 委員(副委員長)、丸山君恵 委員、加藤進 委員、衛藤悦郎 委員、小岩井清志 委員、中村梢 委員、白澤勇一 委員、中澤美穂 委員、西山直美 委員、青柳靖決 委員(12名中11名)
- 5 オンライン出席者 仙石弘子 委員(12名中1名)
- 6 アドバイザー 長野県観光機構 金子孝明、石川淳也、三井猛司
- 7 市側出席者 商工観光スポーツ部 野口部長、観光課 下里課長、高野係長、丸山係長、由井係長、黒岩、延本、第一企画株式会社
- 8 公開・非公開の別 公開
- 9 傍聴人 2人 記者 0人
- 10 会議概要作成年月日 令和4年9月16日

協議事項等

1 開会 (副委員長)

2 委員長あいさつ (委員長)

- ・全6回の会議日程のなかでも、今回(第3回)と次回(第4回)では、ビジョンの中核に当たる部分を議論する。
- ・前回オンライン参加の方は発言の機会をもてなかったが、今回は出席しているので、ぜひ意見交換していただけたらと思う。

3 議事

(1) 施策体系(コンセプト・柱・基本戦略・施策)の検討

●「資料1」「資料2」に沿い、施策体系について説明(事務局)

- ・P2～9については、第1回・第2回で議論した、本市における「観光の役割」「現状と課題」、「観光における社会潮流」を整理したもの。今後、冊子を作成していく際、施策体系や事業紹介の前に掲載する内容の原案。
- ・P10「安曇野市観光の目指す姿」にて、第1次ビジョンと本ビジョンとの連続性や、目指す姿を示している。
- ・第1次ビジョンでは、「安曇野暮らしツーリズム」というキーワードのもと、観光事業者だけでなく、さまざまな産業の事業者や市民、来訪者が関わり合いながら、安曇野市を素晴らしい観光地にしていくことを理念としていた。
- ・本ビジョンでは、その理念を引き継ぎつつ、特に観光事業者に力点を置きながら、下記の3つの好循環を生んでいくことを目指していく。

① 安曇野市と来訪者との好循環

協議事項等

② 各主体（観光事業者、行政、市民）同士の好循環

③ 地域資源と各主体（ // ）との好循環

- ・ P12、13 が本日の協議事項である「施策体系」と、「重点プロジェクト」の設定方針を示したものの。「施策体系」については、前回の議論を踏まえ、文言の修正・追加や項目の入れ替え等を行った。
- ・ P14 からの「資料2」は、施策の内容をイメージしやすいよう具体的事業やその内容を示したものの。ただし、例示であって、中身については次回の委員会で議論する。
- ・ 本ビジョンのコンセプト案として「また行きたい 選ばれ続ける観光地 安曇野 ～期待され、信頼される観光地づくりを目指して～」を提案する。

〈アドバイザー〉補足として県の考えを説明。

- ・ 長野県でも、令和5年度から新たな5か年計画がスタート。テーマは「暮らす人も訪れる人も楽しめる 世界水準の山岳高原観光地づくりを推進」。特に、世界の観光地と比較して遅れているキーワード「持続可能性」に力を入れていく。
- ・ 「施策体系」を見るに、安曇野市の観光振興ビジョンも同じ方向性で検討が進んでおり、特に具体的な内容については、県としても参考になる。
- ・ 観光地づくりにおいては、観光事業者の稼ぐ力を活かすことが肝要。観光機構の役割は、意欲的な観光事業者と連携して成功事例を生み出すこと、長野県観光部の役割は、それを全県に普及させること、という分担で行っている。

〈委員長〉「施策体系」について、前回からの大きな変更点は、下記のとおり。

- ① 基本戦略1-4「観光都市としての基盤整備」の追加（柱3から柱1への移動）
- ② 基本戦略3-1「新しい時代の滞在型観光の振興」の追加（柱2から柱3への移動）
- ③ 柱3の各戦略の「コト」「モノ」「ヒト」による区分けの明確化
- ④ 柱2における「海外発信」の明記

本日は、提案されたコンセプト・施策の柱・基本戦略・施策について、意見を言っていただし、ビジョンの方向性を確定させていきたい。

〈委員〉参考資料として配られた「資料3」に関連して、「駐車場の整備」については、「1-4 観光都市としての基盤整備 二次交通の整備」に含まれていると考えて良いか？

〈委員〉市民・事業者アンケートでもニーズが多かった「交通の整備」は、「1-4 観光都市としての基盤整備」の「二次交通の整備」「インバウンド受入体制の整備」だけで十分か？

⇒ 〈委員長〉施策の中身（具体的な事業等）は、今後アクションプランで検討していく。委員から意見のあった「駐車場の整備」「交通の整備」は、この施策に含まれていると考えている。

⇒ 〈事務局〉「資料2」に具体的な事業の例を記載。交通の関係では、該当施策の中に「ハブ機能を持ったバスターミナル、観光交通情報発信拠点の設置」などを例示してあるので、参考にしてほしい。

〈委員〉P12の「目指す姿」のイメージ図について、「農業」がどこにも出てこないで、ぜひ入れていただきたい。P13の「施策体系」「3-2 地域資源の磨き上げ」の施策「地域資源の活用」について、「地域資源」という言葉でくられてしまうと分かりづらいため、具体的な言葉（自然・景観・文化）に修正してほしい。

協議事項等

- ⇒〈委員長〉P12については、事務局にて検討。P13については、表現について要望が出されたということで、承知しておく、
- ⇒〈委員〉私も農業の取り上げ方が弱いと思う。観光と農業・食文化というのを強力な資源として売り込めないものか。
- ⇒〈事務局〉「資料2」の具体的な事業例のなかで、「農の魅力活用事業」「わさびを活用した観光振興事業」等を記載し、農業に関する事業も想定している。また、農林部で策定している「農業・農村振興基本計画」では観光課とも連携。それぞれの計画で補完し合っている。

〈委員〉柱3の3つの戦略の並びについて。これからの少子高齢化の中で、人材をはじめとした、小さくなるパイを取り合うだろうことを考慮すると、まず「ヒト」をつくりながら「モノ」を磨いて「コト」をつくるという順番になると思う。

- ⇒〈委員長〉人を重要視したビジョンという点は大いに共感できる。指摘のとおり修正したい。

〈委員〉柱3について、「地域独自の観光資源を活用」するためには、「連携」が不可欠。「連携」という要素を加えるべき。

- ⇒〈委員長〉施策への追加ではなく、柱3のタイトルを「地域独自の観光資源の活用と連携」としてはどうか。

⇒〈事務局〉「資料2」の右端の欄に「実施主体」「連携先」を記載している。

- ⇒〈委員〉「連携」は、一番大事な要素だと思うので、柱のタイトルに言葉を入れた方が良い。

⇒〈委員長〉委員会としては、柱3のタイトルを「地域独自の観光資源の活用と連携」とすべきと結論を出したいが、事務局でも庁内調整などするなかで、不具合などあれば、文言などは適宜修正してほしい。

〈委員長〉委員長としては、第1回、第2回の委員会を踏まえて、①交通の支援、②滞在型観光の振興、③強みであるシニア層、弱みであるヤング層への施策 の3つが重要と考えていたが、これらの要素が網羅された内容となっている。ここで一旦、施策体系のうちコンセプト・柱・基本戦略までは決定としたいが、どうか？

- ⇒〈委員一同〉異議なし。

⇒〈委員長〉では、「コンセプト・柱・基本戦略」までは決定としたい。

〈委員〉コンセプト案について、「安曇野 潤う まちづくり」を提案したいが、どうか？

- ⇒〈委員長〉コンセプトは今決定したところであるため、提案について議論はできない。

〈委員長〉続いて、「施策」について検討していきたい。

〈委員〉「1-3 観光DXの推進」の施策「デジタルを活用した来訪者の利便性向上」について、「情報一元化」を加えてほしい。交通の整備は、「1-4 観光基盤の整備」の「二次交通の整備」

協議事項等

の中で行っていくことと思うが、ハード面の充実は大変難しい。それを補うため、交通情報を中心とした観光情報を、デジタルを活用して一元化するというソフト面の整備が必要。具体的には、安曇野への行き方や、安曇野市にどのような交通手段があるかということ、総覧できるようなシステムの構築が必要と考えている。

⇒〈委員長〉どのレベル（施策 or 事業 or 事業の内容）で追加すべきか？

⇒〈委員〉一元化すべき観光情報は多岐にわたるため、施策に追加してほしい。そこには、観光を発信するハブ機能を持った拠点の整備も含めるべきと考える。現状は、それぞれの情報はしっかりしているが、連携が図られておらず散らばっている状態。

⇒〈事務局〉「1-3 観光DXの推進」の施策「デジタルを活用した来訪者の利便性向上」の中で、「MaaSの推進」「デジタル活用による利便性向上」など、情報の一元化に関する事業を想定している。

⇒〈委員長〉「情報の一元化」については、必要だと判断する。発言の趣旨を理解した上で、どこに入れ込んだら効果的なのか検討の上、追加する。

〈委員〉「1-1 観光地ブランドの確立」に、「観光の福祉への貢献」を追加してほしい。移動弱者（老人、病人、障害者）の方々に対する施策を展開していけば、安曇野観光のブランド化につながると思う。

⇒〈委員長〉指摘の内容は、「1-4 観光地経営の実践」の「社会経済のサステナビリティの醸成に向けた事業者支援」に事業例として「ユニバーサルツーリズムの推進」を想定している。委員の意見としては、施策に引き上げるべきということで承知しておく。

⇒〈委員〉「ユニバーサルツーリズム」という言葉は大きな概念であるため、「施策」ではなく、より上位の「基本戦略」に位置づけるべき。「施策」に置いてしまうと、要介護の方のツーリズムとの誤解を招く。発言の内容で「施策」や「事業」として位置づけるのであれば、「高齢者にやさしい観光」などの表現にすべき。

⇒〈委員長〉発言の趣旨は、移動弱者に優しい観光地としての文化を築くべきというもの。そうした趣旨を踏まえつつ、施策レベルで適切なところに追加することとしたい。

⇒〈委員〉宿泊施設では「ユニバーサルツーリズム」はすでに取り組みられているものだが、推進していくには設備投資が必要。市としては、どのような支援をしてくのか検討した上で、適切な位置に入れてもらいたい。

⇒〈事務局〉事業例「ユニバーサルツーリズムの推進」の内容としては、施設整備の促進・補助や、活動している団体との連携等を想定。詳しい内容については、今後、アクションプランを検討するなかで、協議してほしい。

〈副委員長〉「資料2」の項目「事業及び内容の例」は、施策に含まれるものとして、観光課で考えたもの。次回、ここ各委員の意見を加え、検討していく。今回の議論は、「施策」の部分。

協 議 事 項 等

本日の委員会では、ここまで決定させたい。

⇒〈委員長〉「情報の一元化」「ユニバーサルツーリズムの推進」については、適切なレベル（施策 or 事業 or 事業の内容）で適切な位置に加える、具体的な事業の内容については次回検討するということで、今回は「施策」まで決定としたい。

⇒〈委員一同〉異議なし。

(2) 重点プロジェクトの設定方針

〈委員長〉次回、検討することとしたい。「資料1」のP12に「(3) 重点プロジェクトの設定」が記載されているため、ここを確認した上で、次回、事務局からの提案内容を検討する。

4 その他

・事務局より、次回日程（10月3日 13時30分～）等について連絡。

5 閉会（副委員長）

※ 会議概要は、原則として公開します。

※ 会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。